特集にあたって

岩井 重久*

和田 安彦**

最近、遺伝子工学における遺伝子組み換え、細胞融合、バイオリアクターなどの新しい手法を取り入れた、ニューバイオテクノロジーが注目され、医学や食品だけに止まらず、様々な分野でその応用が図られ、研究が進められている。

水処理技術面においても、建設省の「バイオフィォーカスWT」、通商産業省の「アクアルネッサンス'90」の官主導型の開発プロジェクトを初め、水処理施設メーカーや素材メーカー等の、民間企業によるバイオテクノロジーの水処理への応用に関する研究も、積極的に行われている。

このように、現在、水処理技術へのバイオテクノロジーの応用は官民両面から進められているが、今後は水処理技術だけでなく、廃棄物処理や汚泥処理、さらにはより快適な生活環境の創造等、環境保全技術全般へバイオテクノロジーは、応用されていくものと考えられる。

そこで、本特集では「バイオテクノロジーの環境保全への応用」として、環境保全へバイオテクノロジーがどのように応用されているのか、また、将来の環境保全技術は、これらを含めてどのように展開していくのか等について、関連する分野を含めて特集した。関係分野の方々に大きく資するものと期待している。

* 京都大学名誉教授 本協会長 Shigehisa IWAI

** 関西大学工学部助教授 Yasuhiko WADA